

平成20年度質の高い大学教育推進プログラム審査結果表【選定】

機 関 名	関西外国語大学				
取 組 名 称	「ASEAN+3」大学コンソーシアム構想				
取組学部等	全学				
申 請 区 分	教育課程の工夫改善を主とする取組				
整 理 番 号	A11188	申 請 の 形 態	単 独	取 組 期 間	3 年
申請の分類	外国語	その他			
キーワード	「ASEAN+3」 大学コンソーシアム, Double Degree (二重学位), 授業を英語で提供, 留学生30万人計画, 次世代国際人				

<選定理由>

本取組は「留学生30万人計画」とクロス・ボーダー教育といった現代社会ニーズという観点から、期待できるプログラムとして高く評価できる。欧米の大学との交換プログラムが主流となっている昨今、本取組はアジアの大学に重点を置いており、アジアからの学生に二重学位プログラムにより、彼らの日本における就職力を育成する意欲的なプログラムである。

ただ二重学位と言う制度からすると、各大学の単位定義が厳格に取り決められているのか、また物価高の日本における学業経費負担のあり方が日本人父母から承諾が得られているのかなどが今後の課題と思われる。

留学生の日本での就職をバックアップするのであれば、多くの企業は日本語で業務がなされているため、日本で英語による授業の意味を明確にする必要もある。彼らの日本語能力を通常授業のなかで育成する上からも日本語による授業推進を検討する必要性も考えられる。

こうした項目を検討し、明確にしていくことで、本取組の質は高くなると期待される。

取組の概要

1. 「ASEAN+3」コンソーシアムの英語授業・二重学位プロで三カ国語使用の次世代国際人を養成

「ASEAN諸国+日本・中国・韓国」(以下「ASEAN+3」)の主として外国語系大学間で、英語による授業提供を基本にコンソーシアムを組み、Double Degrees(以下「二重学位」)を授与するプログラムを構築する。これにより、三カ国語を習得した(母国語+英語は大学教育レベル、留学国言語は日常生活レベル)アジアの明日を担う次世代国際人の養成を図る。

2. 留学生 30 万人計画における「ASEAN+3」大学コンソーシアムの意義と本学の実績

2.1 言語障壁を低く 留学生 30 万人計画において、アジア、特に ASEAN 地域はわが国の今後の国際化の中で重点的に取り組むべき地域である。しかしながら、わが国の学部レベル留学生の受け入れは、日本語能力の取得を前提としている場合が大半で、この障壁は大きい。また、本学の学生の留学希望は圧倒的に英語圏の国で、最近中国がこれに続くようになってきたが、ASEAN 地域にはほとんど目が向かない。これは、英語圏そのものへの希望に加えて、ASEAN 各国における言語習得の壁が一因となっている。

2.2 関西外大の実績とノウハウを活かす 本学は、50 カ国・地域、314 大学と単位互換提携し、毎年 1,500 人の留学生を送り出し 700 人を受け入れるなど、留学について他大学にはない豊富な実績とノウハウを持っている。また、外国語大学の特長を生かして、すでに学部レベルで英語による授業を提供している。アジア地域では、上海外国語大学、北京語言大学(中国)と学位留学協定を締結、釜山外国語大学(韓国)とも近々学位留学協定を締結の見込みで、更にまだ少数であるが ASEAN 各国にも提携大学を有している。

2.3 次世代国際人の養成 こうした背景と実績を踏まえ、「ASEAN+3」の枠組みで英語による授業を提供する大学コンソーシアムを構築し、次世代国際人を養成する一端を担い、同時に本学の教育のレベルアップを図る。日本語能力を習得した留学生の獲得が今後ともわが国の留学生政策のメインルートとなるであろうが、本学はそのサブルートとも言うべき方策を構築しようとするものである。

3. 具体的取り組み

3.1 中・韓からベトナム、ASEAN各国へ まず上述の中・韓両国の大学と、具体的な単位認定方式、カリキュラムの立案に入る。並行して、提携校のベトナム国立社会人文科学大学と協定を締結するとともに、「ASEAN+3」内の本学提携校(上述大学を除き、中国 11、韓国 8、タイ 2、フィリピン 1、マレーシア 1、シンガポール 2 大学)との交渉を進め、順次拡大を図る。

3.2 英語授業の提供とFD 授業については、各国社会事情及び主として提供する社会科学系科目のすべての授業を英語で提供する方式とする。本学では全授業を英語で行っている外国人留学生向け Asian Studies Program を活用するほか、新たに外国語学部、国際言語学部で特別カリキュラムを開発する。英語による教授法を深めるため、海外への教員派遣を含めて FD を強化する。

3.3 二重学位(学位留学)が最適 留学先言語の習得について、日常レベルの言語運用能力を目的としたネイティブスピーカーによる語学授業を提供する。本学では、留学生別科*で提供している日本語教育プログラムの活用に加えて、新たに二重学位学生のための特別日本語クラスを編成する。コンソーシアム参加の各国大学でも同様の取り組みを行う。三カ国語使用能力や提供授業を修得するには短期留学では困難で、2カ年の学位留学とすることがふさわしい。

魅力あるカリキュラムを提供することで各国の優秀な留学生をリクルートし、併せて本学学生の「ASEAN+3」地域への留学を推進する。(※留学生別科は学士課程レベルのアジア・日本事情教育を英語で提供)